



令和4年度4月実施 全国学力・学習状況調査の結果

● 問合せ 学校教育課学校教育係 (☎ 23-3185)

小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語、算数・数学、理科の学力調査と学習意欲や生活のことなどを調査する、全国学力・学習状況調査がありました。

調査結果については各学校で分析し、課題を明らかにして具体的な対策を考え、授業の改善や家庭学習をはじめとする基本的な生活習慣の定着につなげます。

1 学力調査 (正答率)

小学校 (第6学年)

	国語	算数	理科
全国	65.6%	63.2%	63.3%
県	64.0%	62.0%	62.0%
市	65.0%	62.0%	60.0%

● 良好だった項目

国語：言語の特徴や使い方に関する事項、書くこと
算数：数と計算、データの活用、思考・判断・表現
理科：地球を柱とする領域（天気など）

● 課題がある項目

国語：話すこと聞くこと、読むこと
算数：変化と関係
理科：粒子を柱とする領域（水溶液など）、生命を柱とする領域（生物など）

中学校 (第3学年)

	国語	数学	理科
全国	69.0%	51.4%	49.3%
県	68.0%	47.0%	48.0%
市	67.0%	43.0%	46.0%

● 良好だった項目

国語：話すこと聞くこと
数学：資料の活用
理科：地球を柱とする領域（天気など）

● 課題がある項目

国語：書くこと、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
数学：数と式、図形、関数
理科：エネルギーを柱とする領域（電気など）

2 質問紙 (生活・意識) 調査

小学校 (第6学年)

■ 全国・県との比較で良好だった項目

▷自分には、よいところがあると思いますか

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全国	79.3%	13.5%	7.2%
県	78.7%	15.2%	6.0%
市	80.4%	12.9%	6.5%

■ 全国・県との比較で課題がある項目

▷将来の夢や目標を持つことができている

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全国	79.8%	10.3%	9.9%
県	80.4%	10.1%	9.6%
市	78.8%	11.3%	9.9%

【★】・・・『あてはまる』は、『あてはまる』と『どちらかといえばあてはまる』をあわせた数値

▷家庭学習（塾などを含む）での勉強時間【平日】

	2時間以上	1～2時間	1時間未満
全国	25.1%	34.3%	40.5%
県	20.6%	34.3%	45.1%
市	16.4%	31.9%	51.7%

中学校 (第3学年)

■ 全国・県との比較で良好だった項目

▷今住んでいる地域の行事に参加していますか

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全国	40.0%	26.9%	33.1%
県	46.9%	24.7%	28.4%
市	48.9%	26.6%	24.6%

■ 全国・県との比較で課題がある項目

▷将来の夢や目標を持つことができている

	あてはまる【★】	あまりあてはまらない	あてはまらない
全国	67.3%	19.1%	13.4%
県	66.6%	20.6%	12.7%
市	60.8%	25.4%	13.4%

▷家庭学習（塾などを含む）での勉強時間【平日】

	2時間以上	1～2時間	1時間未満
全国	35.2%	34.3%	30.4%
県	23.7%	36.4%	39.8%
市	19.4%	42.0%	38.3%

※無回答などにより、割合の計が100%にならないものがあります。

学校・家庭・地域の役割

伊万里で育つ子どもたちが、郷土を愛し、自分にはよいところがあるということや自身が価値ある存在であるということ意識していることがわかります。

■ 学校

児童生徒が主体的に学習に取り組むための方策を全職員で議論し、研修を行い、授業を改善していきます。

■ 家庭

親子で、将来の夢やその実現について話す機会を持つことが大切です。このような機会を持つことで、自己実現のためのビジョンを持ち、家庭学習をはじめ、計画的に物事に取り組むことができるようになります。

■ 学校と地域との連携

コミュニティ・スクールなどで、これまで以上にさまざまな人との交流を深めることで、自分が人の役に立っている、貢献しているという自己有用感を高めることができます。このことは、将来の夢の実現に向けて、力強く歩むための大きなエネルギーになります。



第43回市美術展を 開催しました

第43回市美術展が市民図書館であり、8月23日～28日に『書』、9月6日～11日に『写真・工芸』、9月13日～18日に『絵画』の3期に分けて作品を展示しました。これは、創作意欲にあふれる作品を公募、展示し、市民に鑑賞の機会を提供することで、文化の振興を図ることを目的に開催しています。

訪れた市民は、「各作品とも表現の違いなどで、作者それぞれ生きざまが出ているようだ。見応えのある作品ばかり」と楽しんでいました。



↑ 展示された書を見ながら、字体や全体のバランスについて話す市民



男女とも仕事と育児が両立できるために

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係 ☎23-2115

今年の3月、市内事業所に勤める男性は、第2子誕生を前に「今回は、育児休業を取ってみよう」と張り切っていたそうです。しかし、職場に前例がない、休業中の賃金保証がない、同僚に迷惑がかかるなどから、上司に相談せず育児休業の申請をしませんでした。

確かに、法律では認められていても、取得できる環境が整っている職場は、少ないのかもしれません。

さて、伊万里市役所の男性職員の育児休業取得は、令和3年度で1人。4月から、管理職と対象者との面談による育児休業などに関する『子育てプラン』を作成し、子育て支援を進めていくこととなりました。民間と比べると、取得環境が整っている官公庁は、積極的に取得を進め、民間事業所へと広めてほしいと思います。

今まで育児休業を取りにくかった女性や先の市内事業所の男性たちの思いを後押しす

る『育児・介護休業法』が、4月から改正・施行されました。この法律により、中小企業でも育児休業を取得しやすい雇用環境の整備、出産（本人・配偶者）の報告をした労働者に対する個別の周知や意向確認が義務化され、取得要件も緩和されました。

10月には『産後パパ育休（出産時育児休業）』が創設されます。これから出産予定（配偶者も）の人は、勇気を出して上司に相談してみましょう。休業中の賃金保証は事業所によりさまざまですが、育児休業給付金を受給できますので、必ず事業所やハローワークに相談してみましょう。

男女が協働して、家庭生活における活動と他の活動を調和させることは大変重要です。その一歩としてまずは家庭内で、個々の状況にあった家事シェアを行い、男女協働を進めていきましょう。

【伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員】

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝⑥

● 問合先 生涯学習課歴史民俗資料館 ☎22-7107

青磁色絵紅葉文皿（鍋島焼）

今月は、青磁色絵紅葉文皿を紹介いたします。この作品は、1710～1740年代に作られた鍋島焼です。

淡い青緑色に発色した青磁に、赤・黄・緑・金色の上絵の具で、もみじ葉を描いて焼きつけた青磁色絵の皿です。優れた鍋島焼が多い盛期鍋島の色絵は、赤、黄、緑の三色を使うことが多いのですが、この作品では珍しく、金色も使われています。これは、青磁に緑のみみじ葉を映えさせる工夫です。

作品の凶柄は、青磁釉で覆われた器面を水面になぞらえ、散つたもみじ葉が漂っている様子を表現していると思われる。

水にもみじ葉を散らした模様を『竜田川文』といいます。『百人一首』の「千早ぶる神代もきかず竜田川



→ 青磁色絵紅葉文皿

からくれないに水くくるとは」という和歌で有名な奈良の竜田川の紅葉を連想させ、深まる秋の情緒が、古来、日本人に『もののあわれ』を感じさせました。徳川將軍家のお気に召す献上品となるよう、和風的美感の粹を集めてデザインされた、鍋島焼の真骨頂といえる作品です。

● 伊万里・鍋島ギャラリー
※入館料は無料です。
(☎22-2267)